「2024 德明盃全國大專院校日語朗讀競賽」朗讀文章(第三篇)

　文字さんたちには人間と同じように性格もあれば、文化や習慣もある。**－中略－**

　ある夏の夜、いつも のように文字さんたちがあつまって宴会を開いていたときのことだ。 困ったことに、〝あ〟さんは、いつものお決まりの自慢話をはじめたんだ。「俺は一番えらい。なぜなら、 あいうえお順でも、アルファベット順でも〝あ〟という音を表す文字が一番はじめにくるからだ」 それをきいた〝の〟さんは、〝あ〟さんにいらだってこう言い返した。 「〝あ〟さんは確かにあいうえお順では一番始めにくるかもしれないけど、使われる回数から言えば、私 が一番なのよ。それって、私が一番えらいってことにならないかしら」 そこに〝を〟さんが「二人とも仲よくしよう」とけんかを止めに入ると、今度は〝ぬ〟さんが「ちょっと待ってよ」と前に出てきて反論しはじめた。「それだったら、私が一番じゃない？だって、私は一 番使われる回数が少ないのよ。めずらしいものに高い価値がつくのは世界共通じゃないかしら」 「いや、あの、みんな仲よくしよう……」 「それだったら……」と、今度は〝ら〟さんが少しおどけて立ち上がった。「僕は

どうかあ。最近、若 い人たちが使ってくれないからな。本当は見られる、食べられるなのに、ら抜き言葉で有名になっちゃっ た よ」 「だから、みんな仲よくしようよ！」**－中略－**

いよいよこれ以上始末に負えなくなったとき、誰かが大きな声でこう叫 んだんだ。 「誰が一番えらいかはわからないけど、誰が一番えらくないかは知っているぞ。それは小さい〝っ〞さ。 だって、彼は音を出さないからな。そんなの文字でもなんでもないさ」

[摘自 112 年專門職業及技術人員普通考試、領隊人員考試試題]